

11.10 集会に向けて

我々文学部セミナーは、教育に

おける日常的生活動体系に内在する権力構造、つまり単位認定权、成績評価权など

の教學權、研究設備などの予算処理权を媒介項として、近代公教育体系へ教室へいつ

空間の中に授業という時間の中に教育機能

を集中し、教育実践（講義・研究行為）を他のすべての実践（所謂日常生活・労働行為を含む）から切離し、との事により空洞化し、さらに、フレジヨウ価値体系

商品生産過程を保障するところのもの！

を教育されるものが自らの力を感性し、思考し、自らの力を自ら展開し、批判し、

自らを変革していくところの自己教育創出

に向けて解体する事こそセミナール解放斗争としてスタートした。このようなものとして

ある我々の運動に於て、明治大學新聞厚生会編集部にかけられた如何を個別明治大學に

おける中教審路線の実体化との一環としてあり、その事は、とりもなおさず明確に、

大學の管理支配体制に対して斗ふ部分にか

けられた部分であり、ドゥカツであるとしてこれら、マツア共斗会議に結集したこと

の諸戦線々第セミナーと共に不平怨忿紛

糾の牛いを展開してきた。しかししかしながら大

學側用新聞（管理体制手段によりわけイデオロギー狂入としての假割）に対してアンチ

するものとしての11・10双方は徹底回は、

7・10評議会固交により勝ちとることはで

きたが、中教審路線（管理・運営戦略の再

編完備）に本質的に迫まる頂をもつたとこ

との如きに有機的に結合していくのか、

このような大前斗争の新たな局面を同か

では、実際に、新聞を出してゆくと共に連

動（学館開放斗争など）をやってゆく、こ

の事は、編集員が斗争主体となり、マツア

共斗会議に結集する部分が真事を書くこと

うより真事だけでなく、現状況におけるメ

ディアの社会的、とりわけ個別明治における

るメディアの社会論、とりわけ個別明治における存在様式そのもの、書き手、読者

手相互の討論の中からどう返す必要がある

だろう。さらに、大新をテコにして内面的に管理体制を體骨にしきさめた大學当局は

大新が彼らにとつて後退をよびりくされる

ハレンチにも学園だよりなるものをテッテ

あげて、その本性を表わし始めた。そして

外的には時間制コクチャード体制をまさに日常化させようとしている。その事を如実に語つてはるのは、本校地区における学生会館

全面ロックアウトであった。相模地区、生田地区における学館には、現代公教育体系からくる矛盾をサークルへ流しこじようだ形と

つゝはるのには、本校地区における学生会館

全面ロックアウトであった。相模地区、生田

地区における学館には、現代公教育体系からくる矛盾をサークルへ流しこじようだ形と

つゝはるのには、本校地区における学生会館

そこで、我々文部省セミナール協議会は、現代公教育の中でも、とも近代化され、また、高等教育とからならば、もつともも管理化され、それがミナールといふ建築形態のものを、我々の課題として見て、するのである。では、どのよつてセミナールが、現代公教育の中に位置付けられて、くるのだろうか？それは、以下のように、さだるう。開設、社会公教育としての教育体系の再編、との再編の一節としての高等教育の再編、そこにおける大学の中等教育化への位置づき機構の近代化、合理化、教育的基準の近代化でより、ここにおける近代の内実こそを能力や、主義的管理体制である。そこで教育基準の近代化として最も有効な方法であるのが、セミナールである。ここにおけるセミナールとは、教養答申にもみられるように、少數なる講義の消代、私用場として、教育知識を前提に、専門的実験を前提に、客觀的真理として教授して生徒の自己主体的・能動的・創造的思考を育てるのである。さることばべたように、この事は、アルミニウム道体系を再生産、維持していく事で、しかしながら事により、日本生活教育体系を保障するものではあても、まことにそれをつよく本末もみてあり得ない。人生にかかわる如くことなどでは、極り得ない事である。この事は、教育者が、公教育体系内で教えられることは、さるへは必然的にアルミニウムシーリングの範囲内にハジラバ道体系へしか教えることはできなく、その教育内容を押しつける事は、教育周縁、教育資源の中に、支配的・開拓性を示したのである。そこで、今般行なわれたセミナールの主張は、我々の主張は、そこは、大変お困りの御苦難を被る事である。しかし、星体的に答えて、そのであるという事と承認して、また、

最後に、我々が大意なり。あるいは教育的意義なりと云ふとすると、我々が志すことは、さだらば、二つがある。それは我々が一生涯、公教育社会化としてあらゆる二つである。
教育といふことは、明らかにわが三空間で公教育はかりでなく、わゆる社会教育といわれる、ヨーロッパ式の学校教育と呼ばれていい。ところの教育の中には、この二つは、全教育体系の中からの大意なり。教育機関なりの位置づけでも、公教育の中から化であるところの複数をもつて、個別且異質的斗争を主導的に担つてゆる、ハーフ・大新争争、ヨーロッパ式の斗争と斗争してゆる、我々が

文部省
セミナール協議会
方策、長谷川。